

# きずな



発行：観音寺市民生委員児童委員協議会 会長：石川 豊 住所：観音寺市坂本町一丁目1番6号



観音寺市立 観音寺中央幼稚園

## 一斉改選に向けて

観音寺市民生委員児童委員協議会

会長 石川 豊

令和元年12月に一斉改選が行われます。この任期中、活動の中でさまざまな思いや感じるものがあつたのではないのでしょうか。どの民生委員・児童委員の方も、委嘱された時から、地域の環境は変化し、マスメディアに流れるような老々介護、8050問題、子どもの貧困、虐待、ひきこもりなど、生活の困りごとの抱える相談に戸惑い悩まれたと思います。

このようなことから、改選時期になると民生委員・児童委員の「なり手不足」が話題になります。民生委員・児童委員として、2期3期と続けられる活動環境を整備する必要から、このたび民生委員・児童委員創設百周年記念事業の一環で「地域版の活動強化方策」を作成することになりました。活動強化方策では、地区単位で民生委員・児童委員が課題を明確にし、単位民生委員児童委員協議会が一丸となって地域づくりを行っていくものです。

また、これから起こりうる災害に対し、災害弱者と言われる人達を平常時から見守り、常により隣人として寄り添ってほしいものです。

一斉改選にあたり、民生委員・児童委員の活動がこれから先も、地域を元気にし、だれもが笑顔で安全に、そして安心して生活ができる一助になることを願ってやみません。

民生委員・児童委員の  
心をつなぐ

「ありがとうございます」「いただきます」この美しい日本の言葉は、その心とともに日本が世界に誇れるものだと思います。

岡山から始まった済世顧問制度から民生委員の父と呼ばれた大阪府知事林市蔵の尽力で、今日まで百年に渡り続いてきた民生児童委員制度もまた、日本が誇れるものではないでしょうか。

何事も便利で、何でも買える世の中になり生活様式も様変わりした今日、拝金主義・個人主義の弊害もあるようです。これからの百年を続けていくためには、制度がいくら立派でもその運用する心が澱んでくると宝の持ち腐れになります。後に続く人たちがこの制度に込められた「隣人愛と社会奉仕の心を受け継ぎ伝えていくことが大切です。」



子ども達の安全を願って通学路の確認をしました。

民生委員・児童委員には、地区内のあらゆる生活上の困りごとやよろず相談が寄せられます。

特に、超高齢化の社会で高齢者に関する相談が多くあり、孤独死・認知症・病気で救急搬送の支援・買い物難民への支援等々、なかにはこれ民生委員・児童委員の仕事なのかと思うものまで有ります。

この制度は、まだまだ認知不足ですが、相談があれば相談者の立場で仲間と共に考え、行政につながることで困りごとを解決しています。三方良しで困ったことが解決でき相談者からありがとうと笑顔で感謝された時は、この仕事をして本当に良かったと思います。人という字はお互い支え合う形になっています。如何に普段の日常の生活での付き合いが大変なことか知らされます。

民生委員・児童委員の仕事は守秘義務もある上に多用なため、どの地区でもなり手不足で困っているようです。制度をこれからも続けていく為に普段の日常生活の付き合いの大切なことを肝に銘じて是非「心」を受け継いでいって欲しいと思います。防災アドバイザーの山村武彦さんは近所の精神を以下のように語っています。

災害等を考えると普段から付き合いのある親しい友人であれば、すぐにでも安否確認しようと思います。しかし普段から付き合いのない隣人の扉を叩くことまではしません。

民生委員・  
児童委員として

民生委員・児童委員になって2年数か月が経過しました。この役を引き受ける前は、民生委員制度やその役目など知りませんでした。そのため、当初は、任された事業をどう進めていけばいいかよく分かりませんでした。

しかし、月1回地区の民生委員・児童委員が集まる定例会で、他の方々に相談したり体験談をお聞きしたりして活動に活かすことができるようになりました。地区内の委員は、現在11名ですが、皆さんの様々な知識や経験、価値観を共有して、困ったことは相談して解決してきました。

民生委員・児童委員の活動は様々です。困難性を感じる活動もあります。独居高齢者の見守り活動もその一つです。自治会に加入されている高齢者とはコミュニケーションが取りやすいのですが、未加入の方は実態が分かりにくくサービスが提供できません。それにマンションに住んでいる方も入居が変わる場合が多く、つかみきれません。個人情報保護のため立ち入れないことがあります。地区内の方から相談を受ける事もあります。その際には、話をよく聞



心をこめて作るおはぎ おいしく食べてほしいな

いて、そこから健康面・生活上の不安などをお聞きして支援できるように配慮して関係機関へつなげる努力をしました。

地区社会福祉協議会の活動は、主にボランティア部としての事業の進んでいます。年2回の給食サービスを行っています。10月に赤飯、3月にはおはぎを作り、高齢者やひとり暮らしの方に配布しています。部員の方々が早朝から準備して作業していただいています。有り難いことです。そして、笑顔で「ありがとうございます」と言ってお受け取ってくれるので、作り甲斐があります。この活動が続けばいいと思っています。

私たち社協のスローガン「人にやさしいまち、ささえあうまち」を目指して、これからも協力し支え合っていきたいと思っています。



## 惻隱の心そくいん

先日、知人から頂いた冊子を読んでいる時、孟子の「惻隱の心は、仁の端なり」という言葉が目にとまりました。無知な私は、「惻隱」という意味が分からなくて、すぐに辞書で調べました。「惻隱とは、ある対象に同情、憐みの心を抱くこと」と記載されていました。もちろん対象は、人間だけでなく、動物や植物等自然界に存在するすべてのものという意味だと思えます。

読んでいくと、「仁とは他を慈しむ、深い思いやりの心」とありました。そして、人間は、本来、他人の不幸を平気で見ていられず、何か自分にできることはないかと考えたり、できることをしようとするやさしい心をもっていると思われています。

私たちは、誰かに支えられて生きているのです。一人では生きていけないのです。支えられている人たちに感謝の気持ちが芽生えたと、次第に自分も誰かを支えてあげたい、誰かの役に立ちたいと思うようになると言われます。誰もが多かれ少なかれ、経験をしていることです。

私は、地域の高齢者の人たちや親しい仲間たちと月4・5回いきいきサロン等が集まっておしゃべりをし



地域子ども達とうどんづくりをしています。  
子ども達は麵棒片手に悪戦苦闘。

たり、体操やゲーム・ハンドベル等を楽しんだりしています。どのサロンも待っていてくれる人がいる、気にかけてくれる人がいる、認めてくれる人がいる、喜んでくれる人がいると思えることは、本当にうれしいことです。そして、今の私の心の支えにもなっています。

民生委員・児童委員をお引き受けして、3年目になります。困ったことや分からないことがあれば、地区民児協のみなさんや市社協の担当の方が、親切に相談のつてくださるので助かっています。

これからも微力ながら、自分のできることで、地域の皆様に、喜んでもらえるよう、そして誰かの役に立てるよう皆様のお力を借りながら、活動を続けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 人のため 自分のため



♪朝の空を見上げて今日という一日が、笑顔でいられるようにそっとお願いした・・・♪

NHKの朝ドラの主題歌の一節が大好きです。今日一日が何事もなく平穏無事に終わればと心の中でいつも祈っています。

私が民生委員を拝命して2年余、最初は自分が皆様のためにお役に立つことが出来るだろうか不安いっぱい活動でした。振り返ってみると満足感がありますが、もつと色々なことができたのではないかと、という後悔があります。

前任者から民生委員の仕事を引き継ぎ、初めて一人暮らしのお宅を一軒一軒伺い、いろいろお話を聞きながら担当者である自分の名前をきずなカードに記入したことが、民生委員としての活動のスタートでした。それから徐々に微力ではありませんが、一人暮らしの高齢者の話し相手としてお宅を訪問し、だんだんうちとけて話ができるようになりました。台風が通過した翌日に伺った時のほっと安心された笑顔を見た時、役に立てたかなあ、と安心したという気持ちになりました。年寄りの方々は皆さんお元気で、私が訪問すると笑顔で迎えてくださり、いろい



高齢者の車いす介助をしました。  
坂道は心よい汗がでました。

ろな話をされます。これはあるお年寄りから伺った話です。「お金を蓄える貯蓄はありますが、人の為の奉仕、それは天国への貯蓄です」このことばは、私にとって深い感銘を与えてくれました。私が民生委員として心掛けていることを掲げます。

- ・常日頃、担当する方の安否を心掛ける
- ・子どもたちの安心安全通学を見守る
- ・安全運転を心掛け、黄色信号ストップ
- ・夜間安全のため門灯を午後九時まで点灯
- ・積極的にボランティア活動に参加する

これらのことに気を付けて、少しでも皆様のお役に立てるよう日々努力しています。

今日、観音寺市は4人に1人が70歳以上の高齢化社会、民生委員としての責任を自覚し、皆様の力になりたいと思っております。

# 主任児童委員として 心がけたこと

引き受ける前からしていた小学校のサポート隊の活動で登校時の交通指導や一年生の下校の付き添い、家庭科のミシンの指導のサポート等で小学生と触れ合う機会がありました。また、絵本の読み聞かせで保育所や放課後児童クラブに時折行っています。このような時は、主任児童委員の立場で、お伺いした時とは違う教職員や子どもたちの生の姿が見えます。「今の子供たちや親御さんは」と思わずにまず様子を見て声に出さない真の声を聞き取りたいと思

# 子どもたちの 居場所づくり

我が子が幼稚園・小学校・中学校に通っていた時期、PTA会長などを務めていた事が理由であろうか、平成二十八年に主任児童委員の推薦を受けた。今思えば十分な内容も理解出来てないまま、よく引き受けたものだといながら羞恥を覚える。

当地区は他と比べ、民生委員・児童委員と主任児童委員との連携が強く、二人三脚で活動する事が非常に多い。主任児童委員がリーダーシップをとって行っている子育てサロン、愛育会と合同で開催される夕涼み会

ました。

また、本年度は、新聞やテレビのニュースに登場した悲しい事件がありました。私たちに何ができるかと思いつながらニュースや様々な資料を見ています。市主任児童委員部会でも話し合ったり、専門家の講演を聞いたり、施設を見学したりしました。そこで感じたのは、すべての事柄を『本音』と『建前』と『すること』のどのレベルで受け取るかだと思えました。〇〇法や行政の説明だけからはこぼれ落ちることがあるから事件は起きるのだと思います。行政や小学校、中学校、保育所、幼稚園はルールに則った建前とすることで、私たち民生委員・児童委員は子どもたちの本音をできるだけくみ取

やクリスマス会など、常に民生委員・児童委員の強力なサポートに助けられている。その逆もある。ひとり暮らし高齢者へ手作りのバラ寿司を提供する給食サービス、介護老人保健施設で行われる納涼祭、特別養護老



地域の夕涼み会で子ども達と一緒に楽しみました。

ります。家庭や幼稚園、保育所、小学校、中学校にどうつながるかです。幸い、大きな事件はなく家庭の見回りをお願いされたくらいです。しかし、気にかかることはいくつもあります。朝、交通指導で近所の交差点に立つ時、必ず「おはよう」と声をかけているのですが、返って来る返事が小声の子どもや中学生がいます。声の小さい子どもたちは歩く速度や自転車の乗り方がゆっくりで、なぜか学校へ回り道をしている子も時に見かけます。学校が楽しくない原因がどこかにあるのではないかなと思えます。昨年の新生下校指導の時、帰り道で一年生同士が今日はYくんのところにお泊りに行くんだと相談がまとまっていました。よく聞

人ホームへの施設訪問など、我々主任児童委員も全面的に協力させてもらっている。

私は基本的に子どもたちの居場所は、学校と家庭だと考える。だがその居場所に馴染めず、不安を抱えたままの子どもたちは、一番居心地の良い自室に逃げ込む。中には何十年もの間、社会との接触を断ち、引きこもる子もいる。当然親の高齢化は進んでいく。これがいわゆる「八〇・五〇問題」。八〇代の親が、五〇代の引きこもってしまった子どもの生活を支えるという深刻な問題。簡単に解決できないナイーブな問題だ。

若者の居場所は一つでも多い方がいい。その選択肢のひとつが地域コミュニティであると私は考える。例



校区の入学式や卒業式に出席、子ども達の成長に感激しました。

いてみると、二人で相談がまとまって、お迎えにきているおばあちゃんも知らないということでした。違う道へ帰っていたM君をおばあちゃんに事情をお話して事なきをえました。学校にもさっそく電話をして、下校時の指導をお願いしました。



えば、就学前の子どもなら愛育会。小学生は子ども会。伝統行事や秋祭りを継承する青年団や、スポーツに取り組みなければ体協に関わるのも良いだろう。私は現在、主任児童委員の他、子ども会の常任理事や青パト隊、安心安全見守り隊にも所属し、日頃より子どもたちと積極的にコミュニケーションを取るよう心掛けている。全ては子どもたちの将来のために。



主任児童委員を

引き受けて

恥ずかしくも「主任児童委員ってどんなことをするん？」約三年前の私の第一声でした。

正直、三年の任期は長いなあというの思いで委嘱を受けたのが始まりでした。全く何も分からないままに研修会、部会等に出席し、早くも一期目を終えようとしています。今までの私は何をしてきたのか、少しでも地域のお役に立つことができているのかと自問自答している毎日です。

最近、連日のように悲惨な交通事故、児童虐待、ゲーム依存等、子どもを取り巻く耳を塞ぎたくなくなるようなニュースが入ってきます。先日の新聞には県内の児童虐待件数が五年連続更新と、何とも言えない見出しに嫌な気分になりました。愛される

べきであろう親からの虐待に何の抵抗もできない幼子、聞くに堪えがたい内容に、切なく心が痛みます。どうして、何で、何とかならなかつたのかと苛立ちを覚えました。

自分自身の子育てを振り返っても初めてのことに戸惑うことばかり。思い通りにはならず、自分の時間も大変でしたが、今だからこそ懐かしくもありいい思い出となっています。幸い、近くに両親や同じ年代の子どもを持つ母親など、まわりに相談できる友人や地域の方々に見守られたように感じています。

核家族が増えた現在、子どもを取り巻く環境の変化が見られます。地域全体で社会の「宝」である子どもたちを見守り、健やかに育てていきますよう、主任児童委員の一員として自分にできることから始めようと思います。我が家の隣りは通学路で

地域の中で

民生委員・児童委員を引き受けて、早や数年が過ぎようとしています。「知識も人生経験も浅い私に何が出来る?」「どうしたらいい?」と自問自答しながら過ぎていったように思われます。

しかし、地域の中で、子育て世代、親世代、高齢者世代の人たちと関わり、研修会や勉強会、地区定例会などを通して、私なりに感じたことが二つあります。それは、聞き上手、話し上手であることです。とても難しいことだと思います。人はそれぞれ違うから、その人に合った目線で物事を感じます。聞いたり会話したりしながら信頼関係を築き、同じ地域で生活しているなかで、共に悩み、解決していきたいと思っています。まだまだ無力で役に立っている実感や結果はついてきませんが、私なりの私らしい関わり方で頑張っていきたいと思っています。

す。朝夕元気な声が聞こえてきます。「おはよう、おかえり」と元気なおばちゃんとして、まずは顔を覚えてもらえることから始めたいと思います。

長い間、子どもと接する機会がなかった私が主任児童委員となり、小学校の入学式、卒業式にとご案内いただきましたことも、大きなご褒美と感じています。

子ども食堂で魚を料理

主任児童委員部会は、できる範囲で料理にチャレンジしてもらい、食べる事に興味をもってもらえればと、子ども食堂を新しい試みとして開催しました。食材は三豊郡漁業組合連合会から、朝水揚げされた鰯とハローズ観音寺店が子ども食堂のため提供してくれた食品でメニューを考えました。

日時 令和元年6月30日(日) 10時~13時  
場所 常磐総合コミュニティセンター  
協力者 観音寺市食生活改善推進協議会



メニュー  
鰯のムニエル、骨せんべい、わかめ汁、フレンチトースト、ズッキーニのステーキ、おから、刺身



魚の三枚おろしは、真剣勝負



食改さんの優しい手ほどき





昭和38年3月、18歳で就職のため上京して以来43年間、同じ会社で仕事を続け定年退職しました。そして平成17年4月から故郷での生活を始めました。帰ってきた当時は親戚・近所への挨拶を終えると、特にやることもなく、認知症気味の母親の面倒を見ながら近くの海岸清掃等をして毎日を気ままに過ごしていました。そのような時に、居住している自治会で民生委員・児童委員をされていた方が退任することになり、後を引き受けてほしいと依頼されました。民生委員・児童委員がどのよう

## 私の困りごと(年とともに)

私は、永年勤めていた職を退職し、今、非常勤勤務をしながら民生委員・児童委員をしています。その私が、最近、自分の生活で困ったことがありました。

それは、家のスイッチを入れても電気が点かない、キッチンのガスコンロの調子が悪い、雨漏りがするという事に遭遇したことです。外面的な些細なことです。

現役の際は、こんな場合、近くの馴染みのある電気屋さんへ、ガス器具屋さんへ、大工さんへ電話をすればすぐ解決できたように思いますし、自力でも対応できたと思います。

さて、今回はというと、馴染みの電気屋さんがありませんでした。大型電気店の進出で、今まで頼んでいた電気さんが店を閉じてしまいました。我が家の配線を知り尽くしている職人さんが、どうしているかも分かりません。ガス器具も同様で、メーカーのメンテナンス契約はしていますが、すぐには間に合いませんでした。雨漏りも、大工さんが調子を崩していて、すぐには見てもらえませんでした。困りました。

生活環境の変化や高齢化が、私の生活に大きな影響を及ぼしているということに直面し、今までできていたことができないということに、愕然としました。

最後に、私の外面的な困りごとは何とか対応できましたが、現在、関わっているお年寄りの皆様にも、外面的なことや人に言えない内面的な様々な困りごとをお持ちの方がいらっしゃるのではないかと思います。顔を合わせ、お話を伺うことで、少しでもお役に立つことができればと思い、日々を過ごしています。

なことをするのか。何も分からずに、平成19年12月1日付けで、3自治会担当の民生委員・児童委員に就任しました。

まず、社会福祉協議会で担当の各自治会の会員数と自治会長を教えてもらい、各自治会長宅を訪問して挨拶するとともに、自治会の現状を教えていただきました。また、民生委員・児童委員の心構えや他にやらなければならぬ業務等については当時の会長以下、先輩民生委員・児童委員の皆様から丁寧なご教示を頂き今日に至っています。

今、思い起こしますと当時も種々の出来事がありました。行方不明になった町内在住の女性を委員総出で探しにいたり、自宅が火事になった方の当座の手助けをしたこともあ

りました。その他、安否確認で訪問していた年配女性が訪問当初の数年間は機嫌よく応対していたのが、いつからか家の中に入るのを拒否するようになり、そのことを疑わしく思い、会長に相談し協力を得て、他の委員とともに家の中に入りました。すると、台所他全部屋がゴミ屋敷状態になっていたので片付けをしたこともありました。滅多にないことを種々の状況に応じて解決するのが、地味ですが民生委員・児童委員の務めだと考え任期中に迎える昨今です。

最後になりましたが、よく「故郷は遠くにありて想うもの」と言われますが、それは故郷に帰れない人もしくは帰ることができない人の言うことです。やはり育った故郷は一

番です。5年ほど前に東京の実母が亡くなり、こちらに帰ってきた嫁がよく「こんな所」と言っていたのが最近では言わなくなり、やっとな観念したみたいです。人口減少と子どもが少ないのは地方の宿命です。何とか現状を維持することが大事と考えますが、無理でしょうか。



誰もが住みやすいまちになるようにグループワークに参加しています。

## 編集後記

今年も会報紙「きずな」を発行できる運びとなりました。原稿をお寄せいただきました皆様ありがとうございます。

今期で民生委員・児童委員の任期を迎えられる皆様、これまでの活動ご苦労さまでした。

この会報が、これから民生委員・児童委員を委嘱される皆様や、各機関、自治会長さん等に目を通していただき、民生委員・児童委員の活動にご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

編集後記 守屋 均  
表紙題字 富原 一郎  
表紙スケッチ画 高橋 康員